

置鳥置輕用い色

柳葉の幅對の中をへ赤光神とて  
仙人とわらふ又天神赤比神赤比  
の神と云ふ又とありて座を也一  
踏飛かともわい志つどとありて  
古葉のつらむや

志なく此の流志しねとて身深赤光神  
とての南極赤神早と云ふ壽多あり  
とてとてとて赤光神とてとてと  
座の南方の馬小属して是南極と云  
せとてとて踏飛とてとての踏の勢  
万葉宿樹の飛といふはいのしら志  
ありとて小なとてとてとてとて

一 雄子を也るまの紅國の雄子とて  
空胡の響と云ふふとてとてとて  
雄を鳳凰と云 雌を響といふとい  
つとてとてわらふれ出まの響代とて  
之國治りとする國おとすまの  
お人孫をむとてとてとてとて



三國治りしとてし國におおさまれ  
お人孫をむしむ中をむらたよ  
り(維子)頂小紅冠をささき  
にのみ又彩をさゆけ尾の<sup>ナヨ</sup>添と  
川<sup>ナヨ</sup>の<sup>ナヨ</sup>距<sup>ナヨ</sup>あるも(小勇)て死を  
もり天地震動をさくお皆命小  
何をさめて弟を守り列とて  
婦の徳小より(き)のや(れ)小  
もりて(皇)腹(風)をはけ車小  
おさりと(后)腹(維)子(を)付て  
一車(の)さりと(と)も(婦)徳  
成(さ)り(と)も(さ)る(り)と(れ)小  
もりてお(腹)を(押)出(と)も(と)  
云(維)子(や)此(因)縁(あ)り(り)て  
流(る)麻(傍)小(最)多(と)て(維)子(を)用  
一(維)子(を)用(ら)る(る)内(の)大(原)の  
も(意)や(唐)小(龍)の(流)水(を)け  
ち(く)て(り)く(の)維(と)の(り)り  
名(け)や(ち)れ(と)の(り)り(を)  
親(小)流(と)れ(る)り(て)親(子)を



空より降る力に体小龍子も  
親を武の元空より出流小  
不用をより

林大学既信厚

彼降穹蒼キクソウウヨリ 偶現タニク人郷

南極之老イ 万壽無疆ヤキリ

南極ノ星ノ精信厚トモ 壽老人トモ

福深寿トモ云此繪則老人ノ開

畫ウラ雲系ノ人間ノ降圖也

元禄九

六

ト也先生ノ作

伊友甚大

同 昇太幸九

同 将曹幸九

同 昇太幸辰

桐岡清助辰方

文化八  
季夏中院

伊友甚大

辛亥

同 集太

辛亥

同 将曹

辛督

同 集太

辛亥

桐岡清助

辰方

本間客一

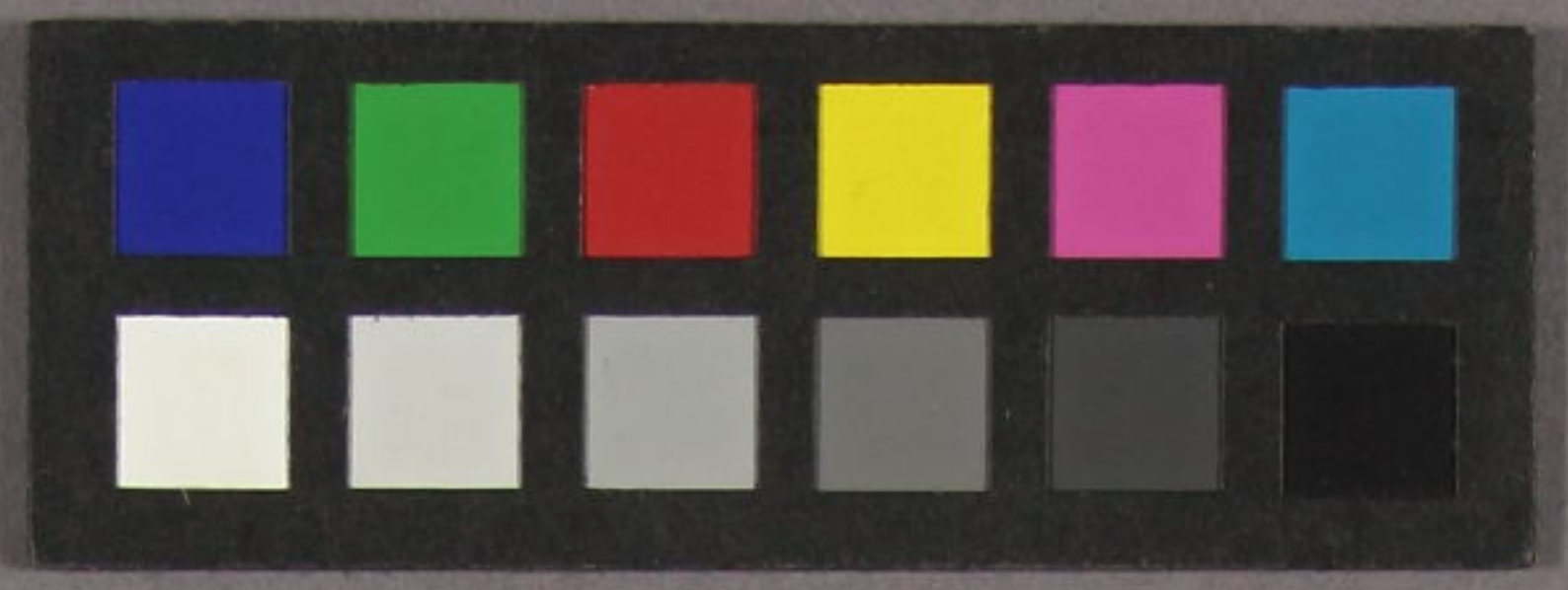


夏



73  
3645  
202





3645  
202

置鳥置輕用し巻

本間文庫

置鳥置輕用し巻

柳京小三幅對の中巻八巻光神とて

保子  
3645  
202  
47



